

# ふれあい

NO. 229

2012. 7. 15

社会福祉法人 大阪市知的障害者育成会  
(別名 大阪市手をつなぐ親の会)  
大阪市天王寺区東高津町12-10  
大阪市立社会福祉センターB1F  
発行責任者 笹野井 庸夫  
TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623  
<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

## 津川拓也さん パラリンピック2012 ロンドン大会出場が決まりました!! ～母親からのメッセージ～

母：津川智江

東成育成園でお世話になって2年目をエンジョイ中！20歳、津川拓也です。この度、ロンドン2012パラリンピック競技大会、日本代表選手として派遣されることになりました。拓也と水泳との出会いは、1歳半頃、目線が合わず、どのようにはたらきかけても関心を示さず、外遊びに連れ出しても、公園の外周の囲いに沿ってひたすらぐるぐる歩くだけの徘徊の日々。部屋では、指しゃぶりをしながら、布団の四隅を鼻に当てて、白い壁に向かいカラフルな棒を持って目の前で振って残像現象を楽しんでいるだけでした。ちょっと目を離した隙にいなくなり、自動車が走る幹線道路をふらふら歩いていたこともありました。姉・弟にかみついたり、つばをはいたり・・・二人は大変だったと思います。もう何をどうすれば良いかが分からず、思い悩む日々。とにかく何かをしなくては・・・と考え、思ったのが普通の子なら・・・何をしますか？です。ちょっとしたことで、泣いたり笑ったり・・・拓也には、それが全くない。何か拓也が、声を上げて喜んで子供らしく遊ぶことはないかと、いつも探していました。その時に気づいたのが、お風呂にとっても気持ちよさそうにつかっていることです。そこで大きなプールに連れて行ったら、泳げないけれども平気で潜って遊ぶのを見て好きなんだと確信しました。潜った時の音のない世界が好きなのかも知れません。水にただよるのが、気持ち良い開放感なのかもしれません。

それから時間を見つけては、プールに連れて行きました。まずは、3歳になった姉をスイミングに入れて、母にどんな内容か教えてもらい、前もって時間をかけて並ぶこと、座ることを練習して拓也も3歳になるのを待ってスイミングに入れてもらいました。コーチ、姉、母の間で関係が成り立っていましたから、姉がコーチに分からないところは、拓也の通訳になる形で

受け入れが実現しました。何年も水慣れコースにいました。ただ気持ちよくて楽しいだけの水泳が変わったのは、小学1年生の夏休みに舞洲障害者スポーツセンターの「親子水泳教室」に参加した時です。どうしても上手く出来なかった息継ぎを、上手に指導して下さって泳ぐ距離が伸びました。初めてヘルパー付きで「ふれあい水泳大会」にも参加して、毎年レベルアップして大会に参加させてみようと思いました。2歳下の弟が、やはりスイミングに入り、2人がサポートし続けてくれたからこそ続けることが出来ました。好きな水泳を続けさせたいのと、地域の方に拓也を知ってもらいたい思いから中学の特別支援クラスに入り、姉がいる水泳部に入りました。顧問の先生が快く引き受けてくださり、競技水泳として本格的にスタート。タイムが上がったことで、スイミングでも選手コースに入れてくださり、障害者水泳チームの「大阪泳ごう会」に参加させて頂いたことがきっかけで、全スポ&ジャパンパラ大会に出場出来るまでになりました。自閉症、精神発達遅滞、重度知的障害者の拓也が、ここに至ることが出来たのは、姉・弟の我慢と協力、コーチ、先生・・・沢山の方々の支えがあったからこそ実現できたことです。障害の重い拓也が、ロンドンでどれだけの泳ぎをしてくれるかは、分かりませんが、厳しい選考大会を戦い抜き、代表になったことを誇りに思い、クラス分けのないS14(知的障害者は軽度から重度まで一つのクラス)クラスで、拓也の持てる全ての力を出しきってくれることを信じ、出発の日まで【次頁へ】

